

教職実践演習（中・高）

音楽教育講座・田邊 隆

1. 教職実践演習の位置付け

教職実践演習は、平成 22 年度入学生から新設された必修科目である。また大学が教員免許の最終確認を行う科目である。平成 27 年度の学内 FD シンポジウム(2015.12.10)でも、位置づけについて、次の再確認がなされた。「学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され形成されたかについて、大学が(略)最終的に確認するもの」
本学では 15 枠の授業を前半(教職関係)と後半(教科教育)に大別している。本報告書は、後半(教科教育)の 5 枠[回]の担当分に関するものである。

2. 授業概要

- ①基本情報：担当(常勤 1 名)、受講者数(学校教員養成及び音楽文化コース 8 名)
- ②授業概要：[1 回]教育実習の省察、a～c のテーマ(a:音楽教員に求められる知識・技能、b:生徒の発達段階や状況を想定した教材教具、c:授業改善で不可欠な観点)に関する討論とグループ発表、そして教材開発の事例紹介。
[2 回]歌唱の授業実践(附属中学校 2 学年)の動画を視聴しながらの授業分析と授業改善の方策についての討論。
[3 回～5 回前半]模擬授業・プレゼンテーションと各発表(a～h)に対する考察。
 - a. 一風変わったクラシックを知ろう
 - b. 「赤とんぼ」の内容を味わい、歌唱表現を工夫
 - c. 教育実習を通して学ぶ望ましい教師像
 - d. つなげて 奏でる 3 組ミュージック
 - e. 「花」の歌唱
 - f. 「君が代」の歌唱
 - g. 総合的な学習の時間と音楽 ～島唄～
 - h. 授業をプレゼンする ～自分史から音楽を考える～

[5 回後半]全体(5 回分)の総括

- ③授業評価：教職課程の DP-2 以外の 4 観点(到達目標)について、実践力と(文章表現を含む)表現力について評価した。

- DP-1：教科・教職に関する基礎知識、得意分野の専門的知識を有する
DP-3：生徒の発達に応じた授業構成や教材教具の工夫ができる
DP-4：実践から学び、自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけられる
DP-5：多世代に渡る対人関係を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる
- ④授業時間外の促進：記述式「教職に就く上での備え」についてアンケートを実施し、履修者全員に対して模擬授業(プレゼンテーションを含む)を課すことで、履修者自身が 4 年間を総括する時間を確保するように、本授業で意図した。

3. 履修者の意識

履修者の教職に関する意識(自己 PR)について、DP ごとに以下記した。

- DP-1：専門を生かし伴奏の工夫ができる。専門を究める姿勢が表現力の自信となった。教職について貪欲に学ぶ様になった。
DP-3 ユニバーサルデザインの視点で授業作りができる。生徒とのフィードバックを常に意識した授業ができる。伝えたい・知って欲しい気持ちを基底に置いた授業作りができる。
DP-4：教壇やステージに立つことで、自身の教育観が明確になった。生徒から助けられる経験を通して、生徒理解について実感し心理学との照合ができた。
DP-5：実践経験を積むことで、言葉遣いに配慮できる様になった。自らの失敗など体験談を話すことで、悩む生徒に対しても真剣に対応できる様になった。全ての生徒に対して公平な態度で接することができる様になった。愛情深く最後まで時間をかけて生徒の話に耳を傾けられる様になった。

4. 今後の課題

課題として、履修者全員に対して(任意では無い)特定の題材に対し、実際に対応できるか、実践力の確認があげられる。